

消火剤噴霧自動消火システム  
(S P l a s h α)  
取扱説明書

***NOHMI***



- ・ 取扱説明書をよくお読みのうえ、安全にお使いください。
- ・ いつでも使用できるように大切に保管してください。

# 目 次




○安全上の注意（ご使用前に読んで頂きたいこと）	2
1. 概要	4
2. システム構成	4
3. 作動フロー	5
4. 各機器の働き	
(1)開放型ヘッド	6
(2)感熱開放ヘッダー	6
(3)閉鎖型ヘッド	6
(4)本体ユニット	7
(5)表示機	9
(6)補助加圧ポンプ	9
5. 各状態における対応	
(1)平常時	10
(2)火災時	10
(3)停電時	11
(4)誤作動時	12
(5)故障時	13
6. 点検	
(1)日常点検のお願い	14
(2)定期点検について	14
7. 表示機の表示一覧	15
8. 耐用年数と定期交換推奨部品	
(1)耐用年数	16
(2)定期交換推奨部品	16
9. 機器仕様	
(1)開放型ヘッド	17
(2)感熱開放ヘッダー	17
(3)閉鎖型ヘッド	18
(4)本体ユニット	18
(5)表示機	20
(6)補助加圧ポンプ	20
○支社・営業所一覧	




## 安全上の注意


- ・ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ・ここに示した注意事項は、設備を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
- ・危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに区分しています。






 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷や障害を負うか、または、防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される場合。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が障害を負うか、または、防災機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合、および防災機能を長期にわたって有効に活用する上でぜひ守ってほしい事項。

- ・お守りいただく内容を次の警告表示で表示しています。

	危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
	禁止の行為を告げるものです。
	行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

 <b>警告</b>	
<b>一般的な注意事項</b>	
	<b>表示機の表示、スイッチ状態を確認する</b> 定位にない場合、機器が正常に作動しない、または誤作動の原因となります。
	<b>機器一式および部品の交換は、耐用年数および交換推奨時期を目安に交換する</b> 経年劣化により機器が正常に作動しないことがあります。
	<b>本体ユニットの鍵は大切に保管する</b> 本体ユニットを施錠した状態で、鍵を紛失するとシステムが誤作動した際の緊急停止作業や定期点検時に作業ができません。
	<b>感熱開放ヘッダーおよび閉鎖型ヘッドの周囲（P6 取付状態図参照）温度が、製品の「取付場所の最高周囲温度」を超えないように維持管理を行う</b> <取付場所の最高周囲温度> MJSJ003-55 : 39℃未満、MJSJ003-66 : 39℃未満、MJSJ003-88 : 64℃未満、 閉鎖型ヘッド : 39℃未満 感熱開放ヘッダーおよび閉鎖型ヘッドの周囲（P6 取付状態図参照）温度が製品の「取付場所の周囲温度」未満の環境下において動作、性能を保証するものです。取付場所の周囲に高温になるものがある環境や、その他の事情による環境の変化、想定を超える状況や特殊な環境下に設置されると誤作動したり、正常に作動しない場合があります。
	<b>補助加圧ポンプの電源を長時間落とさない</b> 配管内に漏れがあった場合、誤作動の原因となります。
	<b>手以外では機器の操作をしない</b> 手以外で操作すると、機器の破損や確実な操作ができないことがあります。
	<b>機器を無断で改造しない</b> 機器の破損や機器が正常に作動しないことがあります。
	<b>機器に無理な外力を掛けない</b> 機器をぶつけたり、落下させるような無理な負荷を与えないでください。故障または誤作動の原因になります。

	<b>感熱開放ヘッダーに物を掛けない</b> 感知障害や誤作動の原因となります。
	<b>感熱開放ヘッダーおよび閉鎖型ヘッドの周囲に高温になるものを置かない</b> 誤作動の原因となります。
	<b>感熱開放ヘッダーおよび閉鎖型ヘッドに空調の風を直接当てない</b> 温風の場合は誤作動、冷風の場合は感知遅れの原因となります。
	<b>本体ユニット内のヒーターに手を触れない</b> ヒーターが作動中に手を触れると、やけどをすることがあります。
	<b>火災時は、制御ユニットを操作しない</b> 正常に作動しないことがあります。(制御ユニットは故障時を除き、火災時は全て自動で動きます。)
<b>点検に関する注意事項</b>	
	<b>点検の際は、必ず別途「点検要領書」に従う</b> 誤った操作を行うと、設備が誤作動することがあります。

 <b>注意</b>	
<b>一般的な注意事項</b>	
	<b>機器に異常がある場合は、調査を施工業者、点検業者に依頼する</b> 機器が正常に作動しない、または誤作動の原因となります。
	<b>点検は有資格者が実施する</b>
	<b>復旧作業は、消防機関などによる消火および安全確認後に行う</b> 消火および安全確認前に復旧作業を行うと危険です。
	<b>修理が必要な場合はメーカーに連絡する</b> 弊社にご相談ください。

## 1. 概要

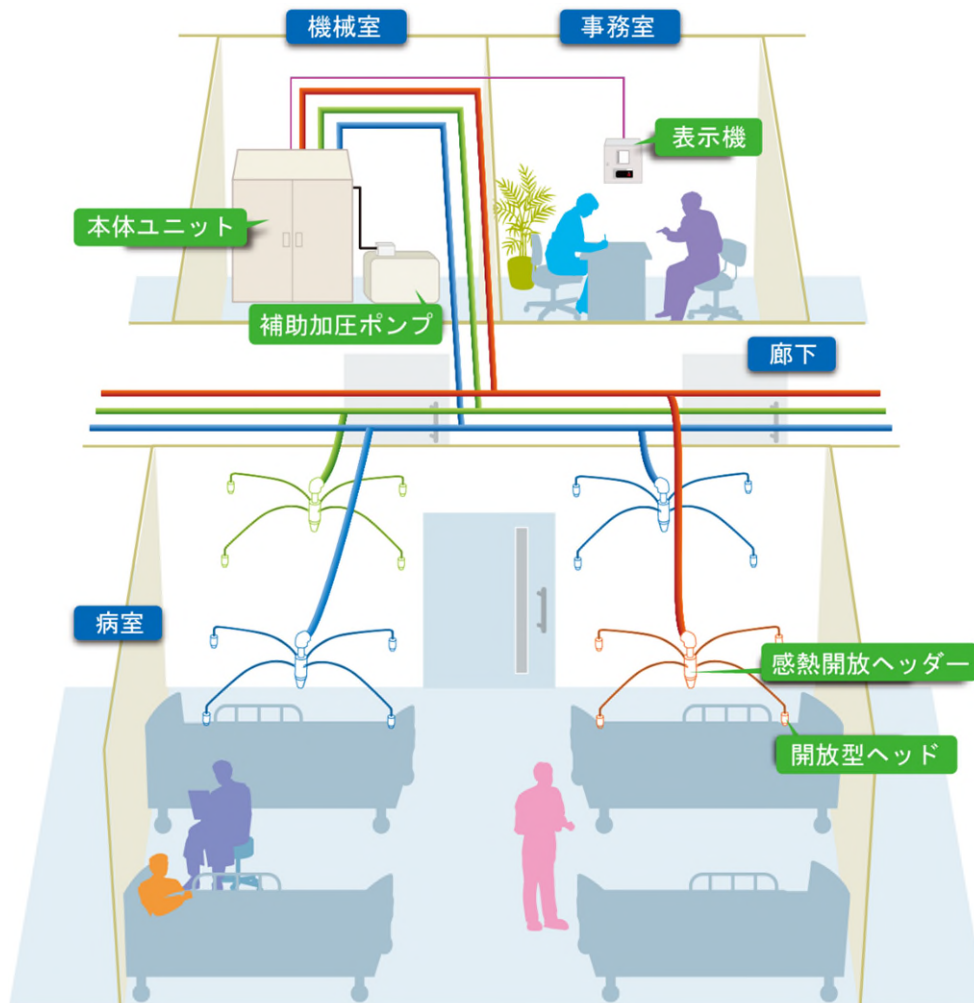
本システムは、スプリンクラー設備の代替の消火システムです。火災時はシステムが自動で起動して水および消火剤を開放型ヘッドから放射し、火災の拡大を抑制します。また、火災が発生したことを事務所や管理人室などに設置した表示機でお知らせします。

なお、本システムは、スプリンクラー設備と同等の防火安全性能を有するものとして、(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を取得しています。

性能評定結果の概要	
消防防災用設備機器の種類	小規模防火対象物用自動消火設備
型式記号	消火剤噴霧自動消火システム
性能評定番号	評28-002号
性能評定日	平成28年3月30日

## 2. システム構成

本システムは、開放型ヘッド、感熱開放ヘッダー、本体ユニット、表示機、補助加圧ポンプなどで構成されています。本体ユニットから各防護部分の天井面に設置した感熱開放ヘッダーまでを3系統の配管で接続し、本体ユニットから感熱開放ヘッダー間は補助加圧ポンプで常時適正な圧力で充水しています。また、本体ユニットには、消火剤貯蔵容器、選択弁、加圧用ガス容器、制御ユニットなどを収納しています。



### 3. 作動フロー

- ① 平常時は、本体ユニットから感熱開放ヘッダーまでの配管内に水が充水されています。
- ② 火災の熱で感熱開放ヘッダーが作動すると、配管内の水が開放型ヘッドから放射されます。
- ③ 開放型ヘッドから水が放射され配管内の圧力が低下すると、本体ユニットからガス圧によって消火剤が配管系統に送り出され、開放型ヘッドからの放射は水から消火剤に切り替わります。
- ④ 一定時間消火剤を放射した後、一旦放射を停止します。
- ⑤ 停止から一定時間経過した後に再放射を行い、以降消火剤がなくなるまで放射と停止を繰り返していきます。これにより、散水障害による残り火があっても火災拡大を抑制します。
- ⑥ 表示機のシステム起動中灯が点灯し、音響が鳴動することでシステムが起動したことをお知らせします。



## 4. 各機器の働き

### (1) 開放型ヘッド

火災時に水および消火剤を放射します。室内の天井面に設置されています。



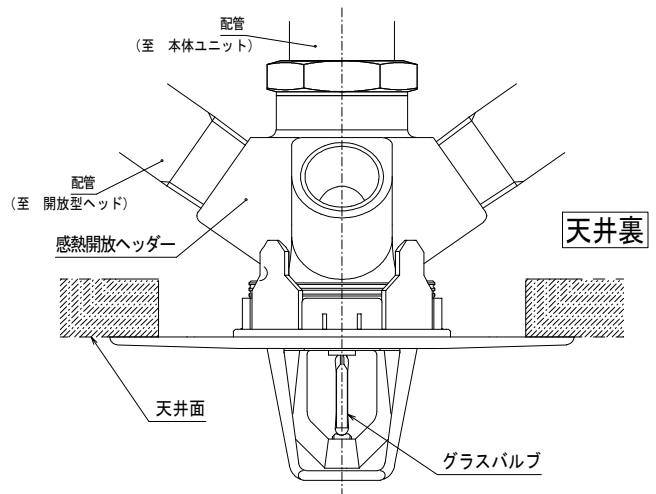
開放型ヘッド

### (2) 感熱開放ヘッダー

本システムの感知部であり、火災の熱で作動すると感熱開放ヘッダーに接続した開放型ヘッドに水および消火剤を送水します。室内の天井面に設置されています。



感熱開放ヘッダー



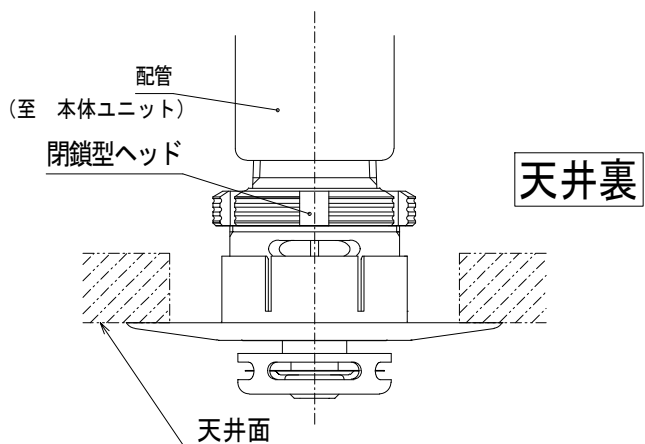
感熱開放ヘッダー取付状態図

### (3) 閉鎖型ヘッド

感熱開放ヘッダーと開放型ヘッドの代わりに、押入やクローゼットの比較的小さい部分に設置するもので、火災の熱で作動すると水および消火剤を放射します。



閉鎖型ヘッド



閉鎖型ヘッド取付状態図

#### (4) 本体ユニット

消火剤貯蔵容器、選択弁、加圧用ガス容器、制御ユニットなどを収納したものです。  
屋内に設置する屋内型と屋外に設置する屋外型の2種類があり、屋外型は屋外設置に適した構造とし、凍結防止用のヒーターを内蔵しています。

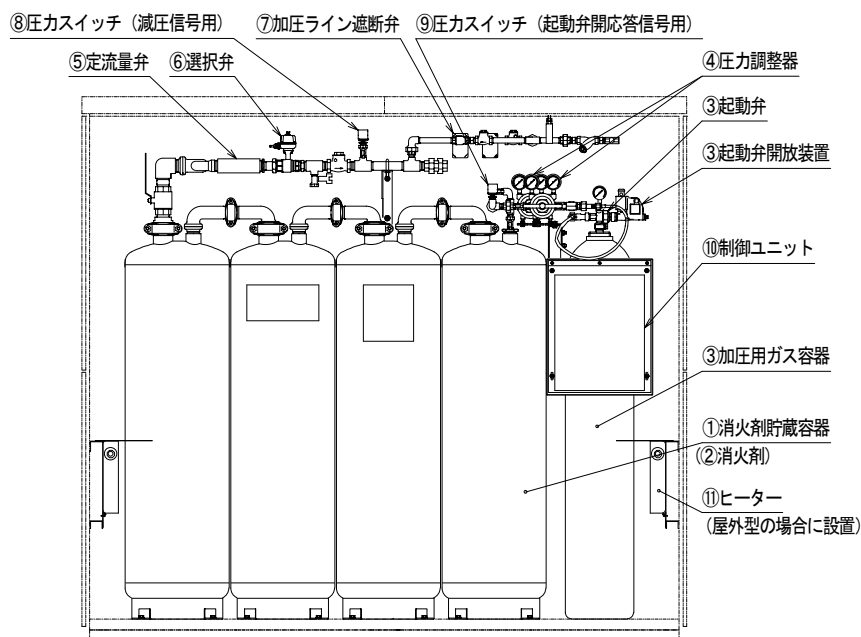


本体ユニット外観（屋外型）



本体ユニット外観（屋内型）





内部機器配置

① 消火剤貯蔵容器	消火剤を貯蔵するための容器で、常時容器内は消火剤が保管されています。
② 消火剤	水と比べて高い消火性能、再燃防止性能を有した第三種浸潤剤等入り水を使用しています。
③ 加圧用ガス容器、 起動弁、 起動弁開放装置	消火剤を送り出すための圧力源となる窒素ガスを封入した容器および起動弁です。火災時は、起動弁開放装置が起動し、起動弁を開放すると、加圧ガスにより消火剤貯蔵容器を加圧します。
④ 圧力調整器	加圧用ガス容器内の高圧窒素ガスを適切な圧力にするための機器です。
⑤ 定流量弁	開放型ヘッド、閉鎖型ヘッドから常に一定の放射量が得られるように制御するための弁です。
⑥ 選択弁	火災時に感熱開放ヘッダーが作動した配管系統に消火剤を送るための弁です。
⑦ 加圧ライン遮断弁	火災時に補助加圧ポンプと本システム（本体ユニットから感熱開放ヘッダー間の配管）の接続を遮断するための弁です。
⑧ 圧カスイッチ （減圧信号用）	感熱開放ヘッダーの作動に伴う配管内（本体ユニットから感熱開放ヘッダー間の配管）の減圧を検知し、信号を制御ユニットに出力するためのスイッチです。
⑨ 圧カスイッチ （起動弁開応答信号用）	加圧用ガス容器の開放に伴う配管内（加圧用ガス容器から消火剤貯蔵容器間の配管）の昇圧を検知し、信号を制御ユニットに出力するためのスイッチです。
⑩ 制御ユニット	火災時に弁の自動制御、表示機へ火災信号を送るための機器で、火災時以外にも、本システムの点検時に使用します。常時、システムの状態を監視し、異常時は表示機に異常信号を送ります。また、予備電源を内蔵しているため、停電時でも一定時間のシステム起動が可能です。
⑪ ヒーター （屋外型の場合に設置）	本体ユニット内部の温度が 3℃になると自動で起動し、内部温度が 5℃になると停止します。本体ユニット内の配管の凍結防止用として使用します。

### (5) 表示機

事務所や管理人室など常時、人がいる場所に設置され、本システムの起動や異常を知らせるための機器です。システム起動時や異常の際には、該当する表示灯が点灯し、音響が鳴動します。



表示機

### (6) 補助加圧ポンプ

本体ユニットから感熱開放ヘッダー間の配管内を充水し、圧力を常時保持するための機器です。



補助加圧ポンプ

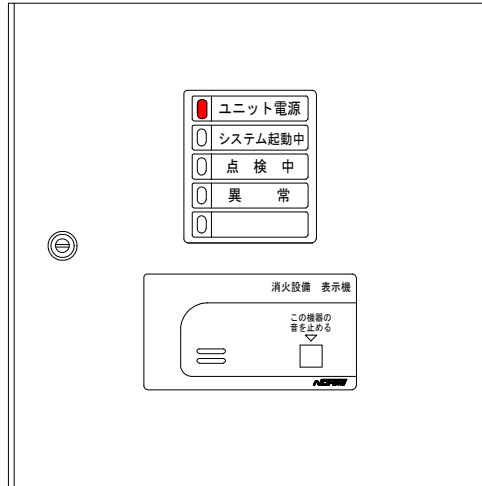
## 5. 各状態における対応

本システムの状態は、事務所、管理人室などに設置された表示機で確認できます。

表示機の状態（表示灯点灯、音響鳴動など）を確認していただき、システムの各状態における適切な対応をしてください。

### (1) 平常時

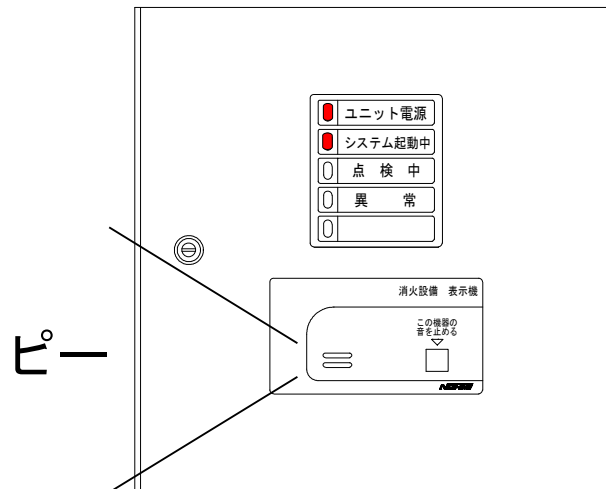
表示機のユニット電源灯のみが点灯しています。（その他は消灯）



### (2) 火災時

表示機のシステム起動中灯が点灯し、音響が鳴動します。（制御ユニットに表示機以外の機器を接続している場合は、その機器も作動します。）

故障時を除き、**火災時は全自動で動くため、お客様の操作は必要ありません。**



#### 対応

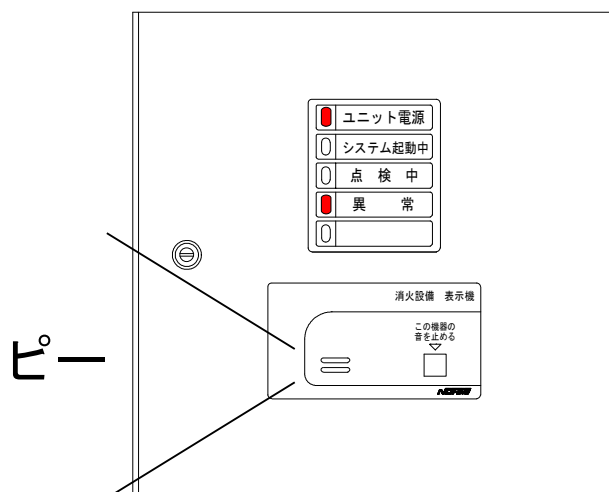
別途設置している自動火災報知設備の状態や現場を確認し、火災の状況により、初期消火、消防への通報、避難などの適切な対応をとってください。

#### 対応

鎮火確認、消防による現場対応などが全て完了した後に施工業者、点検業者までご連絡していただき、設備を復旧してください。（設備復旧時に感熱開放ヘッダーなど本システムの構成機器の一部を交換する必要があります。）

### (3) 停電時

表示機の異常灯が点灯し、音響が鳴動します。(制御ユニットの電源が予備電源に切り替わります。) 予備電源は、1時間監視後、システムを正常に作動できる容量を持っています。



#### 対応

表示機の「この機器の音を止める」スイッチを押してください。スイッチが点灯し、音響が停止します。

#### 対応

復電後は、表示機の異常灯は自動で消灯します。また、表示機の「この機器の音を止める」スイッチを再度押して復旧してください。(スイッチが消灯していることを確認してください)

スイッチが入ったままになっていると、火災時などに音響が鳴動しません。

建物の停電試験などにより、長時間の停電が予想される場合は…

#### 対応

- ・ 予め制御ユニットの電源(主電源および予備電源)を遮断し、復電後、電源を投入してください。(制御ユニットの電源投入状態で、補助加圧ポンプの電源が遮断されていると、誤作動のおそれがあります。)
- ・ 制御ユニットの電源遮断、投入方法は、別途「制御ユニット機能仕様書」を確認のうえ行ってください。
- ・ 電源投入後、表示機の「システム起動中」灯が点灯した場合は、施工業者、点検業者に連絡してください。(停電による補助加圧ポンプ停止などの要因により、本体ユニットから感熱開放ヘッダー間の圧力低下が発生しています。なお、電源投入時は連動遮断されているため、システムが誤作動することはありません。)

#### 警告

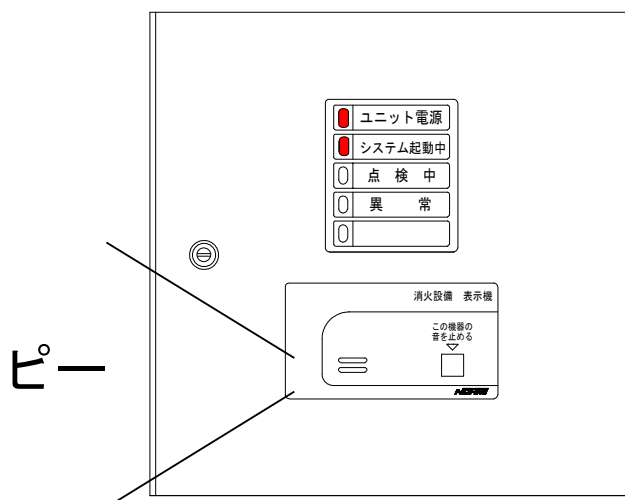


#### 補助加圧ポンプの電源を長時間落とさない

配管内に漏れがあった場合、設備が誤作動するおそれがあります。

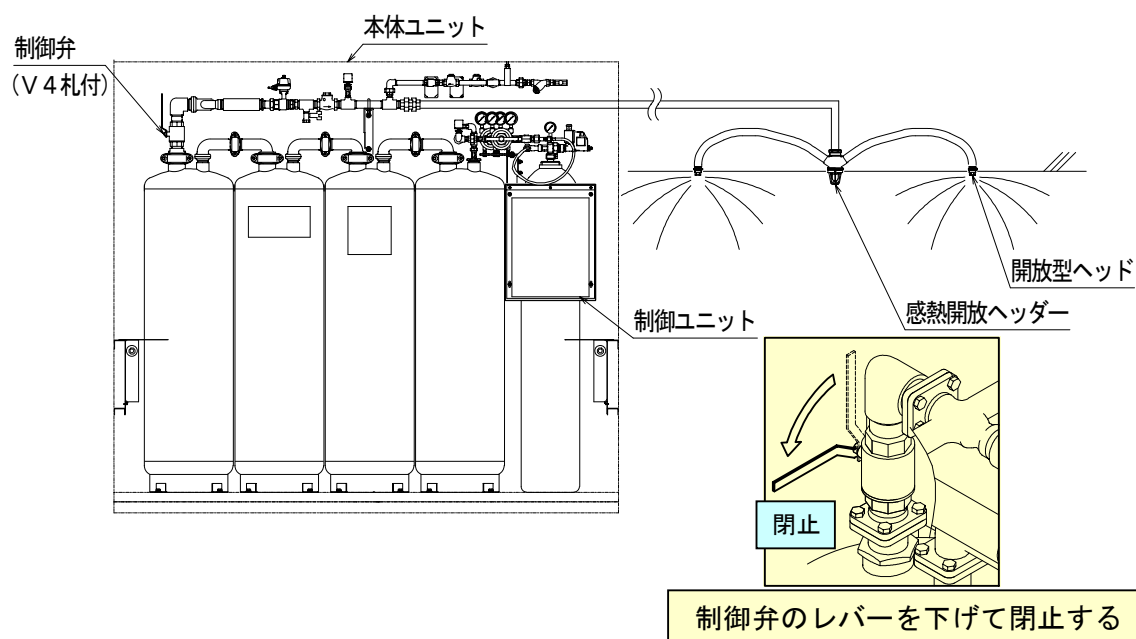
#### (4) 誤作動時

感熱開放ヘッダーに物をぶついたり、火災以外で熱が加わると、感熱開放ヘッダーが作動し、火災時と同様にシステムが起動して、表示機のシステム起動中灯が点灯して音響が鳴動します。



#### 対応

別途設置している自動火災報知設備の状態や現場を確認し、火災が発生していない場合は、表示機の「この機器の音を止める」スイッチを押してください。スイッチが点灯し、音響が停止します。



制御弁のレバーを下げて閉止する

#### 対応

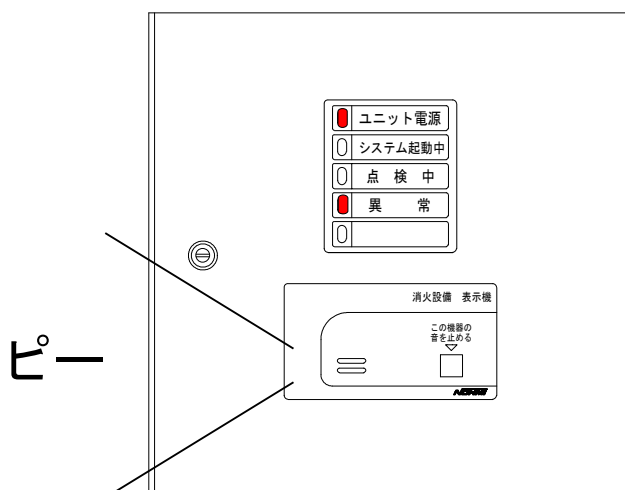
開放型ヘッドからの放射を停止するには本体ユニット内部に設けられた「制御弁 (V4 札付)」のレバーを下げて閉止してください。  
表示機、制御ユニットからの操作ではシステムを停止できません。

#### 対応

施工業者、点検業者までご連絡していただき、設備を復旧してください。(設備復旧時に感熱開放ヘッダーなど本システムの構成機器の一部を交換する必要があります。)

## (5) 故障時

制御ユニットまたは補助加圧ポンプに異常が生じた場合は、表示機の異常灯が点灯し、音響が鳴動します。



### 対応

表示機の「この機器の音を止める」スイッチを押してください。スイッチが点灯し、音響が停止します。

また、異常が復旧（表示機の異常灯が消灯）しましたら、「この機器の音を止める」スイッチを再度押して復旧してください。（スイッチが消灯していることを確認してください。）

### 対応

制御ユニット盤面の状態を別途「制御ユニット機能仕様書」を参照のうえ、確認していただき、施工業者、点検業者までご連絡してください。

## 6. 点検

### (1) 日常点検のお願い

異常を早期発見するため、日々の確認が重要です。異常を発見した場合は、施工業者、点検業者までご連絡願います。

- ① 表示機が平常状態（ユニット電源灯のみが点灯、その他は消灯）であること。
- ② 感熱開放ヘッダーおよび閉鎖型ヘッドの周囲に異常がないこと。
  - 物が掛かっていること。
  - 周囲に高温となるものが置かれていたり、空調の風が直接当たっていないこと。
  - 取付場所の周囲温度が次の温度を超えていないこと。

MJSJ003-55：39℃未満、MJSJ003-66：39℃未満、

MJSJ003-88：64℃未満、閉鎖型ヘッド：39℃未満

- ③ 開放型ヘッドの周りに障害物がないこと。
- ④ 各バルブの開閉状態が正常であること。
- ⑤ 補助加圧ポンプの電源が入っていること。
- ⑥ 機器に変形、損傷、脱落、著しい腐食などないこと。

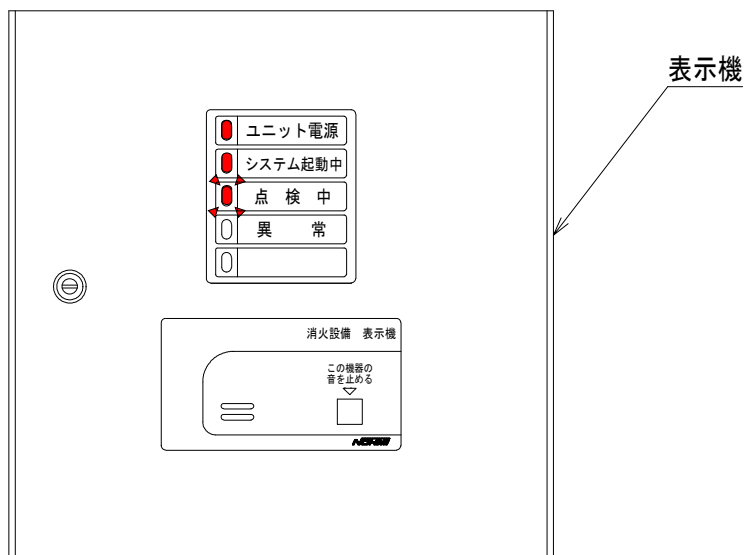
### (2) 定期点検について

本システムの定期点検は、性能評定で定める基準および所轄消防の指導に基づき本システムに精通した有資格者が行う必要があります。施工店などと保守点検契約を結び、適切に定期点検を実施してください。（定期点検の詳細は、「点検要領書（TN20359）」を参照してください。）

定期点検の期間は以下のとおりです。

	定期点検の期間
機器点検	6ヵ月
総合点検	1年
点検結果の消防への報告	1年

なお、定期点検時には機器の作動点検を行うため、制御ユニットの操作や機器の作動により表示機の点検中灯が点滅、システム起動中灯が点灯することがありますが、異常ではありません。


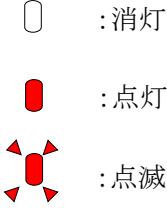



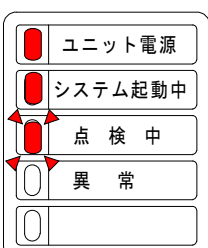


点検中灯が点滅した状態では、感熱開放ヘッダーが作動しても、システムが起動せず、消火剤が放射されません。

**点検時以外は、表示機の点検中灯が消灯していることを確認してください。**

## 7. 表示機の表示一覧

システムの各状態における表示機の表示灯および音響は、以下のとおりです。  
表示機の状態に応じて適切に対応してください。

動作 状態	表示灯	音響	対応
平常時	 	—	—
火災時 誤作動時		鳴動 (ピー)	火災時：9頁参照 誤作動時：11頁参照
停電時		鳴動 (ピー)	10頁参照
故障時		鳴動 (ピー)	12頁参照
点検時		—	—



## 8. 耐用年数と定期交換推奨部品

### (1) 耐用年数

主な機器の耐用年数は、以下のとおりです。

機器	耐用年数
感熱開放ヘッダー	約20年
閉鎖型ヘッド	約20年
起動弁開放装置	約20年
制御ユニット	約15年
選択弁	約10年
加圧ライン遮断弁	約10年
圧力スイッチ	約10年
定流量弁	約10年
消火剤	約10年
補助加圧ポンプ	約10年
圧力調整器	約7年
ヒーター	約5年

なお、耐用年数は設置環境、使用状況などの影響を受けるため、あくまで目安であり、その期間を保証するものではありません。定期点検時に不具合が発見された場合は、部品交換など、その都度適切な処置を行ってください。

### (2) 定期交換推奨部品

本機器を適正に維持するためには、定期点検とともに、以下の機器の定期交換推奨部品を定期的に交換してください。

対象機器	定期交換推奨部品および交換推奨年数
制御ユニット	別途の「制御ユニット機能説明書」を参照
補助加圧ポンプ	別途の「補助加圧ポンプ取扱説明書」を参照

## 9. 機器仕様

### (1) 開放型ヘッド

項目	仕様			
型式名称	MHBj003		MHBj004	
性能評定番号	評28-003号		評28-004号	
種別※1	4個用		8個用	
標準放射圧力※2	0.1MPa(消火剤) 0.085MPa(水)		0.025MPa(消火剤) 0.022MPa(水)	
標準放射量※2	18.8 L/min		9.4 L/min	
標準取付高さ	1.8m以上 2.4m未満	2.4m以上 3.5m以下	1.8m以上 2.4m未満	2.4m以上 3m以下
設計散水半径※3	R1.4m	R1.5m	R0.95m	R1.05m
適用消火剤	水および第三種浸潤剤等入り水			
取付方向	下向き			
適用シーリングプレート	MZHJ014型(ヘッド取付けタイプ) MZHJ015A型(天井取付けタイプ)			

※1) 1の防護範囲に設置する開放型ヘッドの最大個数。

※2) 流量は定流量弁により一定となるが、圧力は消火剤の特性により異なる。

※3) 設計散水半径は、第三種浸潤剤等入り水を使用した場合を示す。

### (2) 感熱開放ヘッダー

項目	仕様					
型式名称	MJSJ003-55※		MJSJ003-66		MJSJ003-88	
性能評定番号	評28-005号					
接続	1次側	20A				
	2次側	15A(4口)				
使用圧力範囲	0.1~1.0MPa(作動後は0~1.0MPa)					
標示温度	55℃		66℃		88℃	
取付場所の最高周囲温度	39℃未満		39℃未満		39℃以上64℃未満	
時定数	τ40秒以下					
有効感知半径	R3.6m	R2.3m	R3.6m	R2.3m	R3.6m	R2.3m
取付高さ	3.5m 以下	4m以下	3.5m 以下	4m以下	3.5m 以下	4m以下
取付方向	下向き/上向き					
適用シーリングプレート	MZJJ002型					

※) MJSJ003-55は販売終了品です。

## (3) 閉鎖型ヘッド

項目	仕様
型式名称	MHSJ012-72-P※ <sup>1</sup>
国検型式番号	ス第24～2号※ <sup>1</sup>
型式	標準型、1種感度、呼称15、標示温度72℃、下向き、
取付場所の最高周囲温度	39℃未満
標準放射圧力※ <sup>2</sup>	0.1MPa (消火剤) 0.088MPa (水)
標準放射量※ <sup>2</sup>	75L/min
取付高さ	3m以下

※1) MHSJ012-72と同等品も使用可能。

使用可能な製品例：MHS525-66 (下向き、フレームタイプ、ガラスバルブ型)  
MHS625-66 (上向き、フレームタイプ、ガラスバルブ型)

※2) 流量は定流量弁により一定となるが、圧力は消火剤の特性により異なる。

## (4) 本体ユニット

項目	仕様	
型式名称	MRKJ001-N	MRKJ001-S
仕様	屋内型	屋外型
使用温度範囲	0～40℃	-15～40℃
最高使用圧力	0.98MPa	
供給圧力	0.7MPa以下	
放射時間	初回放射	140秒 (消火剤90秒) 以上
	断続放射	30秒以上
キャビネット	材質	SPC
	構造	両開き (折れ戸)      両開き (観音扉)
	塗装色	アイボリー (マンセル2.5Y9/2相当)
消火剤 貯蔵容器	内容積	680L (170L×4本)
	材質	SUS304
	適合規格	第二種圧力容器構造規格
消火剤	種別	第三種浸潤剤等入り水 (品評剤第16～1号)
	充填量	640L
加圧用ガス 容器	内容積	68L
	ガスの種類	窒素ガス
	容器弁認定番号	よー178号
	ガス量	10m <sup>3</sup> (35℃)
	充填圧力	14.7MPa (35℃)
	起動弁 開放装置	容器弁ソレノイド (DC24V・1.1A)

項目		仕様
圧力調整器	設定圧力	0.9MPa
定流量弁	型式名称	NSSP-32-C304
	認定番号	VA-122号
	設定流量	79L/min
選択弁	型式名称	MBZJ001
	認定番号	VA-120号
	仕様	25A電動ボール弁
	定格	DC24V・0.1A
加圧ライン遮断弁	型式名称	MBZJ002
	認定番号	VA-120号
	仕様	15A電動ボール弁
	定格	DC24V・0.1A
圧力スイッチ (減圧信号用)	設定圧力	0.1MPaまたは0.25MPa (減圧時) (補助加圧ポンプと本体ユニットの位置により選定)
	定格	DC30V・0.1A
圧力スイッチ (起動弁開応答 信号用)	作動圧力	0.4MPa (加圧時)
	定格	DC30V・0.1A
制御ユニット	型式名称	MUWJ003
	主電源	AC100V 50/60Hz
	予備電源	DC24V 0.45Ah NiCd蓄電池 (1時間監視後、システム起動完了まで)
	消費電力	監視時：13W、動作時：55W
	使用温度 範囲	0~40℃ (結露なきこと)
	設置環境	本体ユニット (屋内または屋外) 内
	表示	交流電源、予備電源、異常、補助加圧ポンプ異常、ヒューズ断、 スイッチ注意、起動弁開放、圧力スイッチ作動、選択弁開・閉、 加圧ライン遮断弁開・閉など
	操作	起動弁開放、選択弁開放、加圧ライン遮断弁閉止、一括復旧、点 検モード、表示機音響停止、外部移報遮断など
	試験	予備電源試験
	制御	起動弁開放、選択弁開閉、加圧ライン遮断弁閉止
その他	イベントログ機能あり (4000件)	
ヒーター	—	AC100V/990W
寸法	H2,055×W2,185×D540	H2,125×W2,360×D645
質量 (消火剤含む)	約1,500kg	約1,700kg

## (5) 表示機

項目	仕様
型式名称	FIPJ203-S-5L
主電源	制御ユニットから供給
使用温度範囲	0～40℃
使用湿度範囲	20～85% (RH) (結露なきこと)
表示	ユニット電源、システム起動中、点検中、異常
操作	この機器の音を止める (音響停止)
警報	システム起動中、異常

## (6) 補助加圧ポンプ

項目	仕様
メーカー	㈱川本製作所
製品名	NFSK2-750S2J2+TAB-10
電源	単相AC200V 50/60Hz
モーター出力	0.75kW
受水槽有効容量	80L
始動揚程	40m
信号	運転、故障、満水、減水
質量 (水含む)	約190kg

# 支社・営業所連絡先一覧

## 能美防災株式会社

本社 〒102-8277 東京都千代田区九段南4丁目7番3号

TEL:(03)3265-0211

エンジニアリング本部	〒163-0455	東京都新宿区西新宿2丁目1番1号(新宿三井ビルディング55階)	(03)3343-1815
北海道支社	〒001-0013	札幌市北区北13条西1丁目2番21号	(011)746-6911
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1丁目2番20号(KDX仙台ビル8階)	(022)221-2695
新潟支社	〒950-0088	新潟市中央区万代3丁目6番8号	(025)243-8121
丸の内支社	〒100-0006	東京都千代田区有楽町1丁目7番1号(有楽町電気ビル南館13階)	(03)3213-1781
茨城支社	〒310-0845	水戸市吉沢町307番1号	(029)239-5280
千葉支社	〒260-0821	千葉市中央区若草1丁目2番12号	(043)266-0303
北関東支社	〒331-0802	さいたま市北区本郷町272	(048)669-2255
西関東支社	〒192-0082	八王子市東町2丁目12番(京王八王子東町ビル3階)	(042)643-1520
横浜支社	〒220-6209	横浜市西区みなとみらい2丁目3番5号(クィーンズタワーC9階)	(045)682-4700
長野支社	〒380-0034	長野県長野市大字高田1353-3	(026)227-5521
静岡支社	〒420-0813	静岡県静岡市葵区長沼二丁目16番10号	(054)340-0013
中部支社	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号(名古屋三井ビル本館3階)	(052)589-3241
北陸支社	〒920-0806	金沢市神宮寺2丁目10番5号	(076)252-6211
関西支社	〒564-0052	吹田市広芝町7番13号	(06)6330-8661
京都支社	〒601-8468	京都市南区唐橋西平垣町7番地2	(075)694-1192
中国支社	〒732-0044	広島市東区矢賀新町4丁目5番26号	(082)510-1125
岡山支社	〒700-0973	岡山市北区下中野328番113号	(086)244-4222
九州支社	〒810-0022	福岡県福岡市中央区薬院二丁目5番7号	(092)712-1560
旭川営業所	〒070-0039	旭川市9条通13丁目24番地270	(0166)25-5600
青森営業所	〒030-0113	青森市第二問屋町1丁目7番2号	(017)729-0532
盛岡営業所	〒020-0133	盛岡市青山2丁目20番5号	(019)645-0552
秋田営業所	〒011-0901	秋田市寺内字イサノ98番1号	(018)862-5086
郡山営業所	〒963-8843	郡山市字川向128番地	(024)947-1194
福島営業所	〒960-8071	福島市東中央3丁目45番1号	(024)528-4195
羽田営業所	〒144-0041	東京都大田区羽田空港3丁目3番2号 私書箱3号(第1旅客ターミナルビル1階)	(03)5757-9393
渋谷営業所	〒150-0036	東京都渋谷区南平台町2番17号(日交渋谷南平台ビル2階)	(03)3461-1051
杉並営業所	〒168-0074	東京都杉並区上高井戸1丁目13番1号(ルート上高井戸ビル3階)	(03)3306-0451
城東営業所	〒130-0012	東京都墨田区太平2丁目8番11号 斉征錦糸町ビル8階	(03)3626-2461
五反田営業所	〒141-0031	東京都品川区西五反田1丁目29番1号(コイズミビル3F)	(03)3779-9737
埼玉西営業所	〒350-1123	埼玉県川越市脇田本町22-16 セレモニー川越ビル2階	(049)247-4640
土浦営業所	〒300-0037	土浦市桜町4丁目3番18号(土浦ブリックビル2階)	(029)822-3851
宇都宮営業所	〒321-0945	宇都宮市宿郷2丁目7番16号(メゾン千秀1階)	(028)637-4317
群馬営業所	〒370-0046	高崎市江木町1716番地	(027)328-1567
沼津営業所	〒410-0311	沼津市原町二丁目3-20	(055)955-5227
浜松営業所	〒430-0901	浜松市中区曳馬6丁目23番16号(モリショウ第1ビル301号)	(053)473-3422
三重営業所	〒514-0007	津市大谷町181番地(津駅西ビル)	(059)226-9860
富山営業所	〒930-0845	富山市綾田町1丁目7番76号	(076)444-1450
福井営業所	〒910-0021	福井市乾徳3丁目8番25号	(0776)21-0056
岐阜営業所	〒500-8381	岐阜県岐阜市市橋4丁目6番7号	(058)201-3771
神戸営業所	〒650-0021	兵庫県神戸市中央区三宮町2-5-1 三宮ハートビル8階	(078)334-3581
四国営業所	〒761-8075	高松市多肥下町1516番地1	(087)868-6811
北九州営業所	〒803-0836	北九州市小倉北区中井2丁目2番4号	(093)583-3344
長崎営業所	〒852-8114	長崎市橋口町12番12号(プロミネンス安武1階)	(095)845-0135
大分営業所	〒870-0822	大分市大道町1丁目6番5号	(097)543-2778
熊本営業所	〒862-0910	熊本市東区健軍本町4-10	(096)360-1051
宮崎営業所	〒880-0841	宮崎市吉村町北原甲1439番6	(0985)28-8792
鹿児島営業所	〒890-0046	鹿児島市西田2丁目7番6号(スカイビル)	(099)253-8196
沖縄営業所	〒900-0003	那覇市安謝1丁目23番8号(株オカノ内)	(098)862-4297